

SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワークの取組②

◎第2回 in 石川

ネットワークの会員に加え、企業や行政の関係者、一般県民など約110名が参加し、基調講演や具体的な事例発表を通して、SATOYAMAが持つ可能性について理解を深めました。

○開催概要○

日時：平成26年10月31日(金) 14時～16時30分

場所：石川県地場産業振興センター本館大ホール（石川県金沢市）

テーマ：SATOYAMAの可能性 ～SATOYAMAづくりから得られるもの～

基調講演：「地域・企業の協働によるSATOYAMAづくり」

香坂 玲 氏（金沢大学人間社会学域地域創造学類准教授）

企業のCSR活動は、日本では植樹活動など、ほほえましい活動として取り上げられることが多いが、海外では、「生物多様性」「温暖化」「貧困」など、企業が持続的な社会・地域づくりをどう担っていくのかという、大きいテーマで取り上げられることが多く、そういった意味でも、「SATOYAMAイニシアティブ」はローカルとグローバルをつなげるイニシアティブである、とご紹介いただきました。

また、企業、とりわけ製造業やIT企業など、生物多様性や里山には一見あまり関係ないと思われる企業であっても、新しい技術を活用することが省資源や自然を守ることにつながるなど、広い意味では貢献につながることや、特に人の営みによって守られる里山の保全については、その地域に暮らす人々と一緒に取り組むことで、地域を元気にしていくという貢献につながるとの指摘がありました。

そして、SATOYAMAづくりなどに取り組む際、社内の議論は総論賛成であっても、細かい部分で課題が出てくるものと思われるが、活動する地域や、活動の指導を受ける外部の方々との接点から、『気づき』が得られ、それは企業にとっての貴重な資産になり得るものであるとのお話がありました。



先進的な里山地域の取組を展開している会員団体に事例発表していただきました。

事例発表：「持続可能な社会・環境に向けて、今、企業が考えるべきこと

～伊藤園の取り組みを例として～

笹谷 秀光 氏（株式会社伊藤園 常務執行役員CSR推進部長）



本業と関わりのある「茶産地育成事業」「茶殻リサイクル」を展開するほか、「お茶で日本を美しく。」など様々な関係者との協働により里山や世界遺産を守る取り組みを紹介していただき、「みんなで学び発信する時代」を結語に、SATOYAMAにおける経営戦略（伊藤園モデル）を説明していただきました